

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
M3140303	臨床検査総合管理学 (Clinical Laboratory Management and Quality control)					生命健康科学コース専門分野	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	2	3	医学部先進医療科学科	後期	月4	日本語		オムニバス					
担当教員	氏名 高橋尚彦 E-mail takanao@oita-u.ac.jp 内線 32701												
授業の概要	【概要】病院、保健所、衛生検査所等での臨床検査部門の役割を管理運営の観点から整理し、精度管理の基礎、検査情報の活用方法について学習する。【到達目標】臨床検査技師として、検査部門の総合的な管理・運営方法と検査データの精度管理と活用方法を理解する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	臨床検査および臨床検査技師のあり方を理解する												
目標2	検査業務の組織と運営を理解する												
目標3	検査管理の概念、考え方と必要性、重要性を理解する												
目標4	サンプリングから報告までの精度保証の意味を理解する												
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							5	2		3			
授業の内容													
1	臨床検査の意義と概念、臨床検査技師の職業倫理と守秘義務(臨床検査技師の役割と使命)												
2	検査部門の組織と業務:臨床検査の目的、役割、組織(検査体制)												
3	検査部門の組織と業務:業務、検体の取り扱いと保存												
4	検査部門の管理と運営:業務管理、人事管理、検査機器管理												
5	検査部門の管理と運営:物品管理、情報管理、財務管理												
6	検査部門の管理と運営:リスクマネジメント、安全衛生管理												
7	検査の受付と報告												
8	精度管理:概要、標準化、外部評価と認証制度												
9	精度管理:測定法の信頼性評価、品質保証												
10	精度管理:精度管理法、精度管理に必要な統計学の基礎												
11	検査情報の判断基準												
12	検査情報の活用:予防医学、検診、衛生検査所(検診センター)の役割と業務												
13	検査情報の活用:在宅医療、衛生行政、多職種連携とチーム医療												
14	検査情報の活用:臨床医学												
15	まとめ												
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認	A:講義内容に関して次回講義で概要をグループ発表する					工 夫 そ の 他 の	・症例や動画を使い理解を深める					
	B:意見の表現・交換	B:グループによる発表、質問											
	C:応用志向	C:レポート作成と発表											
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	・教科書、参考書を用いて次回学習内容を予習する(30h)											
	事後学修	・講義に関連した書物を読む(10h) ・講義内容を復習する(28h)											
	想定時間合計	68											
教科書	検査総合管理学 高木康・三村邦裕 編 医歯薬出版(2016年)												
参考書	臨床検査のガイドライン 日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会 編(2018年)												

